

平成30年度施政方針

はじめに

平成30年度予算関係議案の審議に先立ち、私の市政運営の基本姿勢について申し上げます。

一昨年11月、皆様方の温かいご支援とご理解を賜り、私の第2ステージをスタートいたしました。早くも1年余りが経過いたしました。

振り返りますと、昨年は新居浜市市制施行80周年という記念すべき節目の年であり、「つむぐ つなぐ 未来へ 人へ」というテーマのもと、「東京富士美術館コレクション～美の東西～」や「ジブリのアニメ家近藤勝也展」、「新居浜太鼓祭り80周年記念事業」など各種記念事業を開催するとともに、11月3日には、市政の発展等に多大なるご尽力をいただいた方々をお迎えし、市制施行80周年記念式典を盛大に開催することができました。

また、昨年はもう一つ、大きな出来事といたしまして、「愛顔つなぐえひめ国体」が開催され、10月には、ウエイトリフティングをはじめとする4競技が本市でも開催されました。この大会では本市の選手団が輝かしい成績を残すとともに、ボランティアをはじめ、各種団体や事業者の皆様のご協力により、全国から訪れた選手、役員等の皆様に温かくお迎えすることができました。

このことは、ひとえに、市議会議員の皆様をはじめ、市民の皆様のご支援、ご協力のたまものと深く感謝申し上げます。

これら80周年記念事業及びえひめ国体に、多くの市民の皆様がご参加をいただき、大いに盛り上がったところでございます。中でも「あかがねミュージアム」で開催された各種展覧会で、本物の芸術作品に触れられ、又えひめ国体で、全国トップクラスの選手の活躍を間近に見ることで、市民の皆様の芸術文化及びスポーツに対する関心が益々高まったのではないかと思います。

こうした動きを一過性のものとして終わらせるのではなく、80周年記念事業及びえひめ国体のレガシーとして、将来につなげていくため、今後とも、芸術文化・スポーツの振興に積極的に取り組んでまいり所存でございます。

さて、国におきましては、昨年10月には第四次安倍内閣が発足し、「人づくり革命」と「生産性革命」を車の両輪として、本格的に始動いたしました。

先般の首相施政方針演説では、「人づくり革命」につきましては、「現役世

代が抱える介護や子育ての不安を解消する」として、待機児童の解消に向けて受け皿整備を行う方針が示され、幼児教育の無償化を2020年度を目指して一気に推進するとしたほか、私立高校を含めた高校の実質無償化や大学などの授業料の減免措置と給付型奨学金の拡大も進める考えを強調しております。

また、財源を確保するために消費税の使い道を見直すことで、プライマリーバランス黒字化の達成時期と、その裏付けとなる具体的な計画を示すとのことであります。

さらに、2020年までの3年間を生産性革命・集中投資期間と位置付け、大胆な税制、予算、規制改革、あらゆる施策を総動員し、生産性を大きく押し上げることで4年連続の賃上げの勢いを更に力強いものとし、デフレからの脱却を目指しております。

このような中、本市におきましては、平成30年度は、昨年策定いたしました「シティブランド戦略」に基づく「Hello!NEW」プロジェクトを本格的にスタートすることとしており、これらに係る事業につきましては、できる限り当初予算に反映させております。

「Hello!NEW」プロジェクト

まず、「Hello!NEW」プロジェクトについて、その取組みを申し上げます。

新居浜市では、住みたい、住み続けたい、あかがねのまちを目指して、平成27年末に新居浜市総合戦略を策定いたしました。その実現のためには、市の魅力・個性を市内外に認識してもらい、市の良いイメージを高めるための戦略、すなわちシティブランド戦略が必要と考えております。

そのため、本市では、「Hello!NEW 新居浜」をスローガンに掲げ、人、モノ、コト、いろいろなワクワクがあふれるまちを目指し、みんなが主役、みんなが誇れる、そしてみんなに愛される、新しい新居浜をつくるための新しい活動をスタートいたしました。

昨年の取組みといたしましては、まずは市民の理解と共感を得ることを目的に、6月に私自身が「Hello!NEW 新居浜」宣言を行い、その後、年代、職業、住んできた場所も異なる市民による「新居浜みらい会議」を2回開催いたしました。また、ビッグマップの巡回や市内全戸へのタブロイド紙の配

布、市内各所でのポスターの掲示など、市民の新居浜への誇りと愛着を高める活動を行ってまいりました。その結果、昨年7月に実施した市民アンケートでは、「本市がシティブランド戦略に取り組んでいること」を知っている方が54パーセント、「取り組みをどう思うか」については、「よい」と「とてもよい」を合わせると87パーセントと高い評価をいただくことができました。

平成30年度は、これらの取り組みを踏まえまして、「市民とともに動く、動かす」をテーマに、市外の人々のファンづくりに向けた取り組みも同時に推進したいと考えております。

「市民が愛着を抱き、誇りを感じるまちへ」新居浜プライドの醸成を図るため、みらい会議や庁内の各部局から提案された「Hello!NEW」プロジェクトを本格的に始動することといたしております。

このプロジェクトは、「Hello!NEW INFRASTRUCTURE（インフラストラクチャー）」「都市基盤」、「Hello!NEW INDUSTRY（インダストリー）」「産業」のほか、「福祉」、「教育」、「文化」、「スポーツ」、「安全」、「移住・定住」の8つの分野としており、これらを積極的に推進してまいりたいと考えております。

具体的なプロジェクト事業といたしましては、子育て支援の充実として、妊娠期から子育て期にわたり、切れ目ないサポートを行うため、「子育て世代包括支援センター」を開設いたします。さらに、多子世帯の経済的負担を軽減し、「四国一子育てにやさしいまち」の実現を図るため、多子世帯への入学準備金を支援するとともに、一般不妊治療の助成制度の拡充を行ってまいります。

また、「移住・定住促進プロモーション事業」として、移住者向け住宅、お試し移住用住宅を開設するとともに、移住・定住に特化したポータルサイトの構築や移住ガイドブックの作成など、積極的な移住・定住を促進してまいります。

本市の基幹産業である、ものづくり産業の振興につきましては、新居浜機械産業協同組合と連携し、「別子1号リニューアルプロジェクト」の情報発信を行うとともに、新たな「人材確保対策事業」など、多くの事業を展開することとしております。

平成30年度は、これらのプロジェクトを通して、様々な「新しい」をまちのチカラに、また、まちの魅力になるよう取り組んでまいります。

防災・減災対策の強化・充実

次に、防災・減災対策の強化・充実についてでございます。

東日本大震災からの復興が急がれる中、一昨年にも熊本地震や鳥取県中部地震が発生し、さらに昨年7月には九州北部で記録的な豪雨により甚大な被害が発生するなど、近年多くの自然災害が各地に大きな被害をもたらしております。近い将来の発生が予測される南海トラフ巨大地震に対応するための防災・減災対策の強化・充実は、本市におきましても喫緊の課題であり、「災害における、新居浜市民の死者ゼロ」を目指して、災害から身を守ることを学ぶ「防災センター」を備えた総合防災拠点施設の建設を推進いたします。

また、災害発生時の情報伝達手段となるコミュニティFMラジオ局の放送開始に合わせた防災ラジオの普及促進に努めるとともに、災害発生時の主要な避難所である東雲市民体育館の空調設備の整備を行うなど、様々な防災・減災対策を実施し、安全安心のまちづくりを推進してまいります。

近代化産業遺産の保存・活用の推進

次に、近代化産業遺産の保存・活用の推進についてでございます。

近代化産業遺産である山田社宅の保存整備につきましては、新居浜市総合戦略の主要事業として取り組んでいる「RCC新居浜」のレガシーゾーンとして、住友金属鉱山所長宅に引き続き、住友化学工場長宅の整備に着手いたします。

また、登録有形文化財である旧端出場水力発電所につきましても、一般公開を目指し、平成30年度から本体補強及び耐震工事に着手いたします。これら端出場地区及び星越地区の整備は、産業遺産を活かしたまちづくりの基礎となり、賑わいの創出につながるだけでなく、端出場・東平ゾーンから山根・立川ゾーンを経て、星越・惣開ゾーンに至る、本市の産業遺産の骨格を形成するものでございます。

さらに、現在、住友グループが取り組んでおられます四阪島の旧住友家の別邸、日暮別邸の移転に合わせた、特別企画展をあかがねミュージアムで開催することとしており、別子銅山とともに歩んできた本市の歴史の共有を図り、共存共栄の足跡を発信することで、市民の誇りとなるよう意識の醸成につなげてまいりたいと考えております。

「第五次新居浜市長期総合計画」と「新居浜市総合戦略」

次に、「第五次新居浜市長期総合計画」と「新居浜市総合戦略」についてでございます。

平成23年に市民の皆様の英知と総意により策定いたしました「第五次新居浜市長期総合計画」も残すところ3年となりました。また、平成27年に「住みたい住み続けたいあかがねのまちを目指して」策定いたしました「新居浜市総合戦略」につきましても、残り2年となり、両計画ともに、いよいよ後期を迎え、まさに総仕上げ、完遂に向けて勢いを加速させていかなければならない時期となりました。

各種事業について、具体的な施策を着実に実施するとともに、数値目標やKPIについて、改めてPDCAサイクルによる検証を行いながら、目標達成に向けて全力で取り組んでまいります。

また、同時に平成33年度から始まる「第六次新居浜市長期総合計画」の策定に向けた準備も進めなければなりません。

「熟慮断行」

「十分に考えた上で、思い切って実行すること」

日露戦争の日本海海戦で、連合艦隊作戦参謀として活躍した、松山市出身の秋山真之は、ロシアのバルチック艦隊を迎え撃つにあたって、世界中の戦略に関する書物を読み漁り、研究に研究を重ね、戦法を決定し、それを実行したと言われております。

現在は、スピード感が求められる時代になっておりますが、基本的な戦略の立案など、重要な一手を打つ際は、今でも「熟慮断行」することが重要でないかと思えます。

今年の干支は「戊戌（つちのえいぬ）」でございます。

戊戌には、これまで成長を続けていた草木が、さらに繁茂するという意味もありますが、草木に宿る陽気をしっかりと見定めて、剪定しなければ、繁茂しすぎて枯れてしまう可能性も示唆しています。

平成30年度は、私の第2ステージの2年目であり、「Hello! NEW」プロジェクトを本格的に推進する年であります。今一度初心に立ち返り、広く

市民の意見を聞くとともに、「熟慮断行」を基本に、止めるべきは止め、変えるべきは変え、本市の更なる発展を目指してまいりたいと考えております。

以上、新年度における市政運営の基本姿勢について申し上げました。

引き続き、主要施策の概要につきまして、第五次新居浜市長期総合計画に掲げる6つのフィールドごとに、順次ご説明申し上げます。